

この時点で、全勝は千代鈴一人となったが、結びでまさかの波乱が待っていた。過去に1回負けたことがある関脇鉄甲との対戦。鉄甲は今ひとつ調子が上がらず、ここまで2勝4敗と黒星先行。

誰しもが千代鈴の勝ちを疑わなかったが、両者立ち上がると、千代鈴のかかとが浮き鉄甲に押される体勢に。思わず「やばい！」と春日根親方が叫ぶが、両者の体が土俵に同時について取り直した。

取り直しの一番は、千代鈴としては廻しを引きつけたいところだったが、同じように千代鈴のかかとが浮き鉄甲に押されてしまう。両者の体が落ちるかと思っただが、今度は落ちずに千代鈴の足が土俵を割った。

「前と同じだなあ！」と以前に鉄甲に敗れた時と同じような相撲になったと錦風親方。悔しさをにじませる春日根親方だったが「まあ、いいじゃないですか。皆、同じ星で並んだんだから。」と自身を慰めていた。

1敗の四季嶋、綱乃花は、それぞれ前頭の磯自慢、白閃光に勝って1敗を守った。



磯自慢●(寄り切り)○四季嶋



綱乃花○(押し出し)●白閃光

七日目を終えて、鉄甲を除く関脇以上の上位5人が6勝1敗で並ぶ稀に見る優勝争いとなった。しかも、八日目を降はこの5人の直接対決によって優勝が争われるという第158回本場所の3横綱1大関による優勝争いを彷彿とさせる展開となってきた。

横綱千代鈴は一人横綱としての責任感から「是が非でも優勝を！」と誓っており、大関大神楽は優勝すれば横綱昇進が濃厚、四季嶋綱乃花、西神門の3関脇は優勝すれば一気に大関昇進の可能性が出てくるというそれぞれにとって今場所の「優勝」は大きな価値ある「優勝」なのだ。

現時点で5人全員に優勝の可能性があり、(もちろん龍不動、若柱にも言えることだが)横綱や大関昇進がかかる一世一代の勝負の場所となっているだけに、本人、親方はもちろんのこと、紙相撲ファンにとってもこの上ない楽しみな千秋楽までの4日間となりそう。

果たして、八日目を降、どのような展開となっていくのか。八日目 九日目は来月3月30日に開催される予定。乞うご期待あれ！ (錦風)

十日は桃乃洲と越境山が一敗

五日目まで全勝の桃乃洲が七日目に、柏陵山が中日、七日目に連敗して勝ちっぱなしがいなくなつた。1敗は桃乃洲と越境山、2敗で続くのは英筏、超刃、大石丸、葵盛、逆馬山、柏陵山の6人。

桃乃洲が中日に櫻吹雪に勝って全勝をキープ。同じく全勝だった柏陵山が敗れたためこの時点で単独トップに立った。

翌七日目に英筏に連勝を止められはしたが、ベテランの域に入ってきた元氣な相撲を見せている。

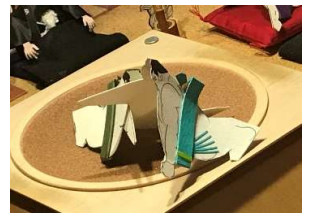


櫻吹雪●(引き落し)○桃乃洲

越境山だつて負けてはいない。小兵ながら相手の懐に潜り込む取口で玄武岩と大石丸を寄り切り、七日目での勝ち越しにつなげた。柏陵山の勢いに刺激されたが、このまま千秋楽まで優勝争いに行きたくてほしいところ。



大石丸○(寄り切り)●超刃



越境山○(寄り切り)●大石丸

そして意外とやりそうな感じがするの逆馬山ではないだろうか。錦風親方は「いや、そんなに強くないよ」と謙遜するが、左差しも右攻めもあり八日目を降もひよっとするとひよっとするかも。

また体重を増やして再起を図る英筏は桃乃洲の連勝を止めるなどまだまだ虎視眈々と優勝と幕内返り咲きを狙っている。



超刃○(寄り切り)●柏陵山



英筏○(引き落し)●桃乃洲

超刃も再度の幕内復帰を目指すが、若手のなり、元氣な取り口で若手を苦しめている。

一方で上位勢では苦戦を強いられる状況となっている。東西筆頭では鹿麒麟が5敗と後がなくなり、玄武岩も勝ち越せるかという星勘定だ。

他に新入幕をかける櫻吹雪と真田丸も黒星先行と千秋楽まで気を抜けない取組が続くそう。

残り4日でどんな展開になって行くのか非常に楽しみになってきた。一方で、今度こそはと十両定着を目指す椿富士と茅ヶ崎が4勝3敗と白星先行としたが、4場所目で十両に定着してきたかと思われた鶴乃里が、依然白星に恵まれず早々に幕下陥落が決まってしまった。

(勝間田)

国技館ふたぐらふ



移動式国技館全景。温泉場所やTV局からの中継、練馬移設前の駒込国技館として大活躍していた。